

# KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会 <https://www.j-kana.or.jp/> email: [info@j-kana.or.jp](mailto:info@j-kana.or.jp)

# 9

September, 2019

vol. 422

## Contents

建築探訪...01

会員仕事紹介...03

支部だより...05

旅行記...07

委員会活動報告...09

編集者のつぶやき...10



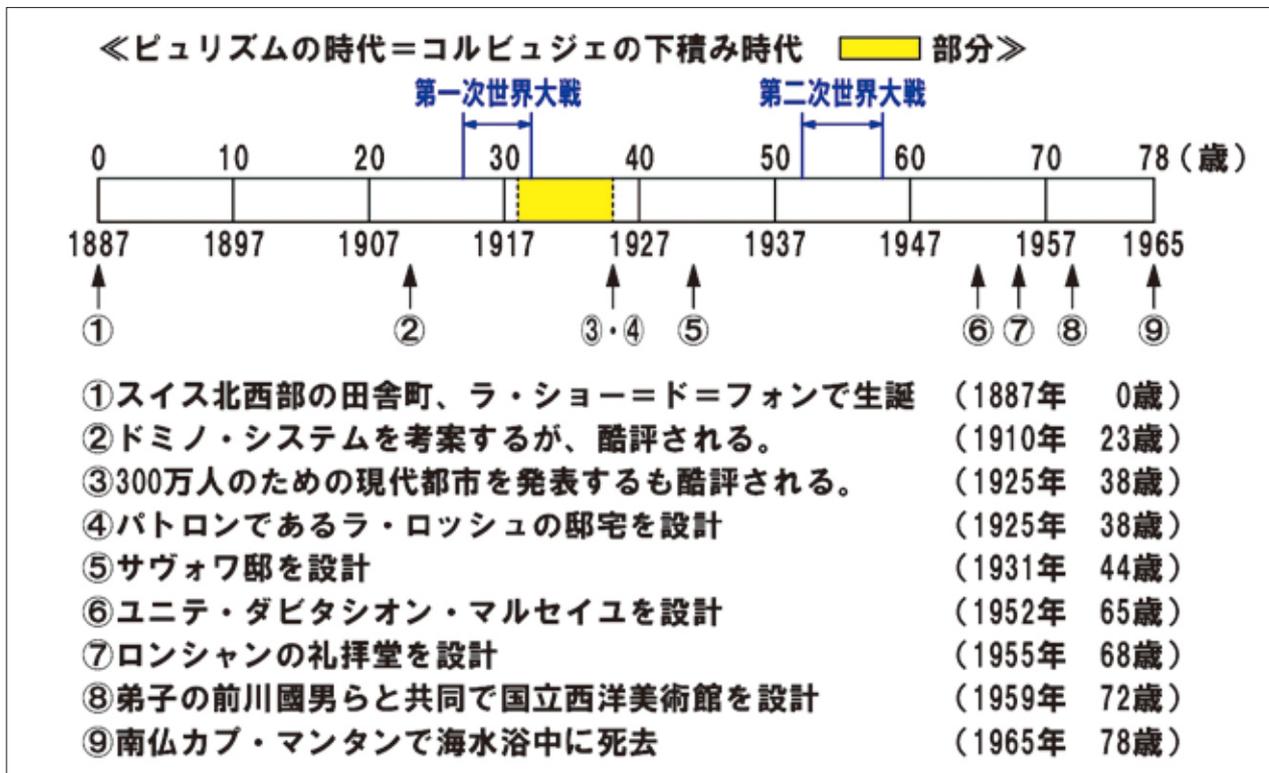
# ル・コルビュジェ展観覧をきっかけに知った、ル・コルビュジェの、その驚くべきルーツと偉業

株式会社ワタナベ福祉設計 渡邊 靖

## コルビュジェだって、当然下積み時代はあった

去る4月24日（水）、横浜支部西ブロックの活動の一環で、上野の国立西洋美術館で開催されていた『ル・コルビュジェ展 絵画から建築へーピュリズムの時代』を観覧した。

ル・コルビュジェといえば、建築士であれば誰もが知る近代建築の巨匠の一人だが、この展覧会では、コルビュジェが建築家としてブレイクする前の31歳（1918年）から38歳（1925年）迄の7年間に焦点を当てた内容であった。また『絵画から建築へ』とは、元々画家を本業にしながら建築の設計を行っていたコルビュジェが、この時期を境にほぼ本業を建築設計一本に絞りを始めた移行期という意味であり、コルビュジェにとっても非常に重要な時期だったといえる。



1

## ピュリズム時代のコルビュジェを支えた、パトロン ラ・ロッシュの謎

ピュリズム時代の1920年、コルビュジェが33歳の時、同じスイス人で一歳年上のアメデエ・オザンファン（1886～1966）と共に、『ピュリズム』という芸術思想を啓蒙するため『エスプリ・ヌーボー』という雑誌を創刊する。今現在でも、雑誌を自主出版しようとすればかなりの費用が掛かるが、時は100年前のことである。駆け出しの貧乏アーティストに過ぎない当時のコルビュジェが、一体どうやって費用を工面したのだろうか？そこで登場するのが、スイス人銀行家、ラウル・ラ・ロッシュ（1889～1965）で、自分の趣味である絵画のオークション落札をコルビュジェに手伝わせる見返りに、雑誌創刊の資金を彼らに提供したのだ。



ラウル・ラ・ロッシュとの縁は、雑誌資金提供のみに留まらず、コルビュジェはロッシュのために収集絵画の展示室を兼ねた自宅を設計する（1925年）。しかも当時新婚だったコルビュジェの兄、アルベル夫婦との共同住宅でもあり、ラウル・ラ・ロッシュとはコルビュジェにとって単にビジネスパートナーの関係を越えた、殆ど親族同然の深い関係性があった。

2016年、このラ・ロッシュ邸を含む17のコルビュジェ作品が近代建築運動への顕著な貢献を認められて世界遺産に登録されたが、この世界遺産登録に尽力したコルビュジェ財団の本部がラ・ロッシュ邸にあることから、コルビュジェにとっては終生、そして没後に至ってもラ・ロッシュ邸が有名なサヴォワ邸以上に重要な作品であったものと考えられる。



ラ・ロッシュ邸 外観



ラ・ロッシュ邸 内観

## ピュリズムとは、キリスト教の異端カタリ派（ピュリスト）に由来

コルビュジェはスイス北西部の田舎町、ラ・ショー＝ド＝フォン出身だが、先祖がその昔ピレネー山脈の麓、フランスのランドック地方からラ・ショー＝ド＝フォンへ移住して来たという経緯を持つ。移住したというよりも、11世紀から14世紀に掛けてランドック地方で流行した、キリスト教の異端、カタリ派に対しローマ・カトリック教会が十字軍を派遣して、カタリ派の信者を根こそぎ抹殺するという悲惨な戦いがあり、カタリ派であったコルビュジェの先祖は、命からがら、カタリ派の避難場所であったスイス北西部へ亡命したのである。

カタリ派は決して過激な宗派ではなかったが、カトリックが標榜する二元論を完全否定し、ローマ教皇による独裁を批判したため、最終的には宗派そのものを叩き潰されてしまう。

ヨーロッパの歴史は、民族紛争と宗教対立の繰り返しといってよく、自らのルーツについて強い拘りを持つという傾向は単一民族の日本人にはなかなか理解出来ない部分である。

コルビュジェが掲げたピュリズムは無論コルビュジェ自身の才能あってのことだが、その底流には、カタリ派のアイデンティティを近代に甦えらせるという意図があったに違いないと私は考える。具体的には『球や円筒、立方体といった純粹立体の強い思い入れと、権威的な装飾への拒絶』であり、その集大成が近代建築五原則（ピロティ、屋上庭園、自由な設計図、水平連続窓、自由なファサード）として具現化した。同じスイス北西部出身のラウル・ラ・ロッシュが、コルビュジェを終生資金面でバックアップしたのは、この近代のルネサンスとも云うべきコルビュジェの挑戦に共感したからであり、その挑戦が日本の建築に大きな影響を与えた事実は大変感慨深いものがある。



写真出典先：The Le Corbusier foundation

10 Square du Dr Blanche, 75016 Paris, French Republic

## 遅い開業の小さな足跡

スタジオアートクリエイト一級建築士事務所 杉本 勝郎

いくつかの設計事務所で修業をさせて頂いて独立開業したのが2011年。人生の半ばと言うにはあまりにも遅い独立と言えるでしょう。

企業在職中は、2坪の公衆便所から、世帯数900戸を越えるマンションまで、数多の物件を経験させて頂いたのは良いとしてもよく言えば「浅く広く」、言葉を変えれば「中途半端」な業務経歴を引っ提げての開業でした。それでも独立前の8年ほどは、福祉施設いわゆる特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の設計を多数経験することが出来たことは幸いでした。

開業早々に立て続けに舞い込んだ仕事が、戸建て住宅でした。実を申せば、もともとビルもの（RC造、S造）で設計者人生を育った私。純粋な木造住宅の経験は乏しく、施主に対しては堂々とした頼りがいのある設計者の顔で接し、内心薄氷を踏む思いでの仕事でした。もちろん先輩の助言を裏では受けながら一から木造の勉強のやり直しの日々でした。（写真①、②）

続いて依頼されたのは、あるお寺の信徒のための集会所でした。

やっと経験のある鉄骨造の建物。土地造成と開発申請には苦労しましたが、思い出深い建物です。（写真③）

その頃、数年追っかけてきた有料老人ホームが決まり、設計欲的にも経営的にもちょっと嬉しい物件でした。（写真④）

その頃、一番最初のお世話になった事務所での経験を発揮させることが出来た耐震診断と補強設計の仕事もすることが出来ました。

これは某製薬会社の福利厚生施設で竣工当時は建築雑誌にも掲載された物件でした。

伊豆高原にあるこの建物の外観と豪華な内装を極力残すという大命題を満たすため補強位置と工法の検討には非常に苦労しました。（写真⑤）

その後安定経営の為に調査業務や現場第三者チェック業務、エンジニアングレポートの作成業務も行いながら現在に至っております。

蛇足ですが、独立する数年前に担当した熊本市にある商業ビルがあるのですが、2016年4月14

日に起きた熊本地震の際心配していたところ、当時施工を担当したゼネコンの監督から「施主の依頼により当該ビルを調査したが家具什器の転倒の他には被害が無かった」との連絡を頂きホッとした経緯があります。（写真⑥）

改めて設計者と施工者の絆が大切だということを感じました。共にかかわった物件の10年近くも疎遠だった設計者にこういった連絡をしてもらえることに感謝すると共に、今後の業務の糧としたいと思います。



①K邸（上田市 別荘 100㎡）新築



②S邸（横浜市 2世帯住宅 160㎡）新築



③宗教施設（町田市 500㎡）新築

4



④有料老人ホーム（立川市 3500㎡）新築



⑤某製薬会社山荘（伊東市 2600㎡）耐震改修



⑥商業ビル（熊本市 810㎡）新築

## 夏期研修会を終えて（湘南三浦支部）

湘南三浦支部長（株）REAL一級建築士事務所 磯 昭弘

湘南三浦支部では毎年、会員建築設計事務所の知識や技術の向上を目的として夏期研修会を開催しています。今年は8月2日（金）逗子文化プラザホールにおいて行われました。

研修会の前半は神奈川県横須賀土木事務所、三浦地区2市1町、三浦市、逗子市、葉山町の建築行政担当課より毎年、最新の建築設計実務に係る情報について講義をお願いしています。研修会の後半は、毎年テーマを決めて講習会を企画しています。今年のテーマは「近年の空き家問題に関して建築設計事務所はどのように関わることができるか？」としました。平成25年統計調査によると神奈川県内の空き家の戸数は全国で3番目の多さであり、その中でも三浦地区の空き家率は17%前後と高く今後も増える傾向にある中で建築設計事務所としてかかわるときの参考になればと企画しました。講師として、良質な住宅を調査し、保存利活用を所有者に提案している葉山の活動団体によって最近企画さ

れたワークショップの報告と、葉山で空き家をシェアオフィスとしてリノベーションした地元設計事務所（非会員）に企画から設計、施工、運用までを具体的に説明してもらいました。

後半の研修会は当支部会員に限らず、前半の行政担当者や事務所協会会員ではない登録設計事務所にダイレクトメールを送り広く参加者を募集しました。その結果、非会員の設計事務所の方15名が参加し、有意義な研修会を行うことができました。

研修会を終えて感じたのは、今回の企画に参加した非会員の設計事務所関係者15名の参加があったことです。当支部の活動について興味を持ってもらえるように有意義な企画をダイレクトメールなどで積極的に告知することで未入会事務所との接点が少しずつでも広がれば入会希望者が増えるのではと期待しています。

ただし、常に興味を抱いてもらえる企画を考え続けることが必要ですが…。

5



前半の建築行政担当課の講義



後半の一般参加者を交えた講義

「地域資源を活かし『参加型』まちづくり」  
旧平野邸リノベーションプロジェクト

2019/06/09 (SUN) 10:00~

WORKSHOP ①  
10時～12時  
旧平野邸のお気に入りを見つけよう！

WORKSHOP ②  
13時～15時  
旧平野邸リノベーションプロジェクトに参加しよう！

参加費無料・申し込みは  
mcm3kshksh@gmail.com  
参加するワークショップをお名前、人数をメールにてお知らせください

■集合場所  
葉山町内163 旧平野邸  
バス停「向原」より徒歩1分  
※当日スタート15分前には「あはの」設計館入口（葉山町内196街）に集合で、現地までご案内します

■当日連絡先  
090-1115-1312（高田）  
※当日、現地で開催と観覧を提供する  
（検討中）確約には、観覧は無料

主催 NPO法人 葉山地域文化デザイン集団  
共催 ENJOYWORKS 協力 旧平野邸所有者

葉山の活動団体が6月に企画した保存利活用ワークショップの概要

## 日本遺産のまち伊勢原

伊勢原支部長

一級建築士事務所有限会社内田工務店 内田 幸夫

## 【大山詣り】

大山は古くから霊山として篤く信仰をされていました。隆盛を極めた江戸期には年間二十万の人々が来山したと記録されています。江戸の町から二、三日の距離にある大山は気軽に参拝できることから、絶好の行楽地としても愛されたのです。大山に参拝した後は江の島などへ行楽する事が人気の行程とされていました。この様子は古典落語「大山詣り」の中にも表されています。



江戸時代の大山詣り

## 【納め太刀】

源頼朝公は平家打倒のために挙兵するにあたり、大山阿夫利神社（大山寺）に太刀を納めたと伝えられています。この事柄は民衆にも広く知られるようになり、人々は競って木刀を納めるようになりました。最初期は小さいものがほとんどでしたが、次第により立派な「粹」な太刀を納めたいとの世相が広がり、大きさや造形に力を入れる人が増えていきました。

中には六メートル程もある木太刀を納められた事もあります。明治以降に「納め太刀」は廃れてしまったのですが、平成22年に伊勢原青年会議所が主催となり「納め太刀」が復活しました。現在では伊勢原市観光協会が引き継ぎ、市民参加イベントとして継続されています。



平成22年に復活した納め太刀

## 【大山講】

現代とは異なり、一人で遠出をする事は大変難しいことでした。そこで民衆は近所同士、あるいは職業同士で団体を作り、「講」として寺社に参拝をしました。現在でも多くの講社が現存しており、主に夏の開山時期に参拝をされています。

その中でも、阿夫利神社三大講社の一つでもある日本橋お花講は、夏山開きには登山道を開

門するといった役割を江戸時代から担うなど、多くの風習も残されています。地域によっては講で大山に登らないと一人前として認められなかったという記録も残っています。



元禄よりお花講による開扉が行われており、平成24年にはお花講の寄進により登拝門の再建がされました

平成28年に、神事協の景観まちづくり専門委員会の有志が主導となり「かながわ建築設計大山講」が誕生しました。明治以降減少の一途をたどってきたが何十年ぶりに新たな大山講が発足しました。初日の午後には先導師旅館にて大山の歴史について学んだあと、楽しい酒宴で一泊。二日目は早朝より大山阿夫利神社へ正式参拝し、旅館に戻り昼食までが流れになります。現在、かながわ建築設計大山講では、講員を募集しております。景観まちづくり特別委員会にお問合せください。



かながわ建築設計大山講

## 【茶寮石尊】

大山阿夫利神社客殿を改装し、大山の眺望を活かしたカフェが今年のGW前にオープンしました。堀部安嗣氏設計の茶寮石尊は、風景が印象的に見える高さに部屋の床レベルを変更することで、各客席からの空間の質や風景の見え方を変える工夫がされています。



大山の新たな魅力、茶寮石尊

歴史と伝統の中に新たな魅力が発見できる大山に、ぜひお越しください。

引用先 大山阿夫利神社HP

## ～漱石の街早稲田・牛込界限街歩き～

## 迷子のすすめ

耕一級建築士事務所 伊藤 耕人

学生時代からぶらりと街を歩くのが好きである。もっとも金が無いので歩くしかない。東京で一足先に働いていた友人と2人して都内を歩き回り、雑然とした都市を浮遊するがごとく朝まで歩いていたことがあった。今もやはり先立つものがないのは変わらないが、ふっとした機会があると出掛けて歩きだす。街歩きは、楽しい。特に著名な建築や興味深い事象など目当てにして歩くのではなく、目的もなくまさにブラブラ歩く。

これまで4～5年企画委員会でバス見学会の企画を担当してきた。「下見までして大変でしょう」「でも伊藤さん結構楽しいからやってくれているのでしょうか？」とからかわれる。その通りと言えれば恥ずかしいが、楽しいのだ。

さて本題の早稲田界限だが、ご存じの通り早稲田大学を中心にした学生の街、と思われるかも知れないが、私の歩く早稲田界限は、その様なモノではない。夏目漱石の実家があり、漱石晩年の住まい「漱石山房」跡があり、早稲田南西の戸山には、旧陸軍軍医学校(現国立感染症研究所)があり、漱石公園からも少し東に進むと前衛芸術家で人気が高い「草間彌生美術館」が外苑通りに面して建っている。

## 「埋め込まれたアリーナ」

きっかけは、1957年築早稲田大学記念堂解体から跡地に新設された早稲田アリーナで行われた息子の入学式に参加したことだった。新しいアリーナは、ほとんどの諸機能、諸室が地下に埋め込まれ、上部は、丘と散策出来る公園となっている。新しいという事もあろうが、この公園に集うという印象はない。むしろ人間は地下でOK! 都市に敢えて多様性を呼び込む「空地」を配した建築であることが伝わる。ハイサイドライトから差し込む光は、コルビジェの西洋美術館の様な明るさとは違うニュアンスを楽しめる。

7



アリーナ上部の公園



アリーナ内部

## 「切実な漱石」

早稲田大学から早稲田通りを弁天町方面に向かい少し南に曲がると、「新宿区立漱石山房記念館」が「漱石公園」の中に建っている。ご存じの通りあれだけ辛い思いをした幼少期の漱石がなぜこの地を選んだのか?もしかして「己が無意識の切実さから吸い寄せられる様にこの地にたどり着いたのではないか?」と妙に合点する。無論様々な外的要因は、あるだろうか?……。明治近代の急激な変化による苦悩と己が切実な課題に粘り強く取り組み格闘した漱石。漱石記念館のエントランスを入ると右手には漱石の書斎が実物大で再現されている。漱石の生涯の紹介に始まり、彼の原稿や草稿、手紙、俳句が展示され、回遊していると時折外の公園の木々が見える。そしてなんとと言っても「猫」の印象が強い漱石。可愛い猫のトレードマークが館内の至る所で見られる。

しかつめらしい漱石の印象があるが、漱石を読んでいると茶目っ気たっぷりだったり、「落第」したり、当時としては破格の待遇であったであろう国からの「博士号」の授与を辞退したり、そんな鷹揚な? 漱石も魅力の一つである。



「下町」を感じる記念館のファザード



再現された漱石の書斎



記念館後方春の漱石公園



草間彌生美術館



### 「無限に浸透して行く草間彌生」

統合失調症の幻覚・幻聴と生涯格闘しながら芸術を追求し続け、世界の「無限」へ向けて「水玉」を用いて拡張させようとする彼女の作品が納められた美術館である。2017年竣工5階建。外観は、円筒形を「くり抜いた」浮遊感が漂う建築である。執念深く図と地のアワイを行き来し、時には狂暴な手法によってめくり返し、自他の境界を快感と恐怖の中に溶け込ませる。まるで世界に「ボーダー」等無いと頻りに訴えかけ「薄明」を仕掛ける。早稲田牛込界隈に2人の芸術家がこの地の縁に吸い寄せられるように立地しているのはあながち偶然ではあるまい。この地が持っている歴史的場所的空間的時間的な様々な「澱」のようなものが彼らを吸い寄せているように思う。

初春に日がな一日「迷子」のように歩き回った一日。狭く入り組んだ早稲田の路地から路地へ夢現の街歩きであった。明るいものと暗いものが見事なまで混在する新しい早稲田の街を是非皆さんも散策してみても如何でしょうか？

「時代の風潮、自分を取り巻く環境、さまざまな価値観、それらを正しく見きわめ自分の判断で行動出来るのは、どこにも属さない「迷子」だけだ」

夏目漱石

## 委員会活動報告

### しごと展補助金等について

広報情報委員会 担当副会長  
DAITOC一級建築士事務所  
大和田 優

本年度から広報情報委員会の担当となりました大和田です。前任の西倉副会長に負けぬよう委員会活動に邁進したいと考えておりますので、どうぞ宜しく御願い致します。

さて、本誌・委員会活動報告でございますが、8月号瓦版で御伝えさせて頂きましたが、本年度は会長の御意向のもと大規模な組織改革があったことに加え、役員改選の時期にも当たり、既存活動内容を継続している委員会を除いて、誠に遺憾ではございますが、会員の皆様へ御報告できる委員会活動には至っておりません。そこで今回の委員会活動報告は、少し毛色を変え、「しごと展の補助金について」を題材に記事とさせていただきます。

皆様も御承知のように、10年以上前に鎌倉支部が始めた「仕事展」は、現在では他の支部やブロックに広がりを見せています。

昨年度は初の試みとして「しごと展」等の支部事業（公益目的支出事業）に対し、総額125万円（1支部上限：30万円）の補助金を交付させて頂きました。「※規定様式の申請書に収支予算書・任意書式の企画書を添付、事業実施後に結果報告書・収支決算書を御提出」

予算の後押しもあり？（ほとんどが支部の皆様の熱意だと思っております）、昨年度に「しごと展」を開催した支部は、継続開催5支部、新規開催1支部となりました。

今年も同様の補助金があります！

本年度は（一財）神奈川県安全協会の社会貢献事業振興基金を財源の一部とし、予算総額126万円（上限30万円）の支部事業補助とし、7月24日付で白井会長から各支部長へ告知と御活用の御願いを发出したところです。「※申請締切は8月30日必着、会報発行日の関係で補助金申請・締切後の記事となることを御詫び致します。」

本年度に「しごと展」を開催する支部数は、どれくらいでしょうか？今から楽しみです♪

ところで、今さらではありますが、なぜ本会理事会は、「しごと展」開催を推奨するのでしょうか？開催経験のある支部から聞こえてきたメリットの一部を紹介することで、回答に代えたいと思います。

○市民への認知度の向上（近所にこんな人たちが居るんだ、こんな団体があるんだ、相談に乗ってくれるんだ、意外と敷居が低いんだ、怖くないんだ？…）

○仕事の内容や作品の公開（展覧会風に自分の作品を展示できる、OBや進行中の施主と一緒に見に行く、他人の仕事を観ける、相談できる…）

○支部会員相互の連携強化（実行委員会などの共同作業を通じて仲良くなれる、仲良くなる何でも聞ける・話せる、人間性や仕事の内容が解ると業務提携がし易くなる…）

○行政を含む他団体等との連携（役所の人に覚えてもらえる、名刺交換からの情報取得…）

もちろん、「しごと展」開催にはデメリットもあります。一番は労力が掛ることです。特に実行委員の負担は非常に大きいと思います。

また、会員数によっては支部独自での開催は難しいかもしれません。そのときは、ブロック単位での開催や、隣接支部との共同開催などを御考慮頂ければと思います。

まずは一度、メリットだけを取り上げて、支部の皆様と御議論頂ければ幸いです。

今まで、いくつかの支部の「しごと展」を拝見させて頂きましたが、各支部にはそれぞれ特色があり企画内容も千差万別で非常に面白い！です。是非、皆様にも「しごと展」巡りを行って頂ければと思います。

脱稿にあたり、皆様からの「しごと展めぐり」を題材にした会報記事の御投稿を期待して…。

新入会員のご紹介	
7月入会者	
<b>大和綾瀬支部</b>	
建築検査学研究所 〒242-0002大和市つきみ野4-5-B・1-407 TEL.046-206-4655 FAX.046-206-4655	大場 喜和
退会者	
<b>横浜支部</b>	
JXエンジニアリング株式会社一級建築士事務所	辻村 英雄
<b>藤沢支部</b>	
ティー設計室	田代 智子
変更	
<b>横浜支部</b>	
千代田テクノエース株式会社一級建築士事務所 (指定代表者変更) 坂本 昌祥	
<b>川崎支部</b>	
JFEコンフォーム株式会社 (指定代表者変更) 紙本 宏規	
有限会社ナカタ設計 (事務所所在地、FAX変更) 〒210-0022川崎市川崎区池田1-12-13-203 FAX.044-244-4520	
有限会社後藤構造設計事務所 (事務所所在地変更) 〒215-0021川崎市麻生区上麻生3-13-1-208	
<b>鎌倉支部</b>	
一級建築士事務所OKUZAWA (事務所所在地変更) 〒247-0071鎌倉市玉縄1-10-7	
<b>賛助会新入会員</b>	
株式会社第一工業	

会 勢		令和元年8月15日現在			
支部名	平成31年4月1日	現在	入会者	退会者	増減
横 浜	261	259	0	2	-2
川 崎	105	106	1	0	1
横 須 賀	50	50	0	0	0
湘 南 三 浦	18	17	0	1	-1
藤 沢	40	39	1	2	-1
鎌 倉	40	39	0	1	-1
茅ヶ崎寒川	17	17	0	0	0
平 塚	22	22	0	0	0
秦 野	16	16	0	0	0
伊 勢 原	6	6	0	0	0
大和綾瀬	18	19	1	0	1
厚 木	28	28	0	0	0
座 間	15	15	0	0	0
海老名	16	16	0	0	0
愛 川	6	6	0	0	0
相模原	67	66	0	1	-1
県 西	41	41	0	0	0
合 計	766	762	3	7	-4
賛助会員	100	104	4	0	4

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。※入会者、退会者には支部間の異動も含まれます。

## 編集者のつぶやき

有名建築や話題の建物のインプレッションや解説は本文の中でご紹介されているので「つぶやく」のは個人的なこと、個人の思いがよかろうと題材に選んだのは私の次女が小学生低学年の時の作品です。

私が彼女に与えたテーマは「菜々ちゃん（次女）の住みたい家を書いてみて！」でした。その返答がこちらの写真です。

案内図・配置図・平面図・立面図が一枚の紙に表現されています。決してそれは意図されたものでは無く、先入観や予備知識なく、パパに伝える表現方法がそれだったと言う事でしょう。

個人住宅の中に公園や映画館、親戚のこどもたちの部屋まである斬新な平面計画、そして図上ではパパの部屋の上部にママの部屋…、家庭内の力関係まで読み取り作り上げた彼女の処女作はパパを感動させるに十分な作品となりました。

そんな彼女も今年はず小学3年生、立派な受験生です。自由奔放な教育方針のもと育ったおかげで規定の評価が通じない彼女の行く末を案じる今日この頃です。

この夏休みの宿題で出された絵本創作でも彼女の才能は、ぶっ飛んでいました…。トンビが鷹を産むことがないのは承知しています。そして親としては子供の将来の幸せと周りの環境の安寧を望みます、競争に勝つ強さは求めませんが、自分らしくいながらも誰かの役に立てる大人になってください。どうかもう少しは道の真ん中寄りを歩いてほしいと思います。

今季、広報情報委員として新しい仲間になりました、県西支部：加藤一郎です。どうぞよろしく。



(県西支部 加藤 一郎)

～ビル名変更に伴う住所変更のお知らせ～  
当会事務局が入居しておりますビル名が、8月1日より下記のとおり変更となりました。

横浜市中区不老町3-12 加瀬ビル201 2階  
(旧：横浜市中区不老町3-12 第3不二ビル2階)

### 【告知】トライアルメンバー制度 (お試し会員制度) がはじまります！

入会ツールの一環として、本年10月より、トライアルメンバー制度 (お試し会員制度) を開始いたします。制度の詳細については後日発表いたします。未入会の方へ入会をお勧めする際には是非お役立てください。

(神事協HP告知パンフ掲載URL)  
<https://j-kana.or.jp/main/apps/wp-content/uploads/2019/07/trialmember.pdf>

## かながわ 令和元年9月号 (通号422号)

発行 令和元年9月1日 (奇数月1日発行)  
発行人 白井 勇  
発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会  
〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 加瀬ビル201 2F  
TEL. 045-228-0755 / FAX. 045-212-3807  
印刷所 株式会社 柏苑社

- ・ 担当副会長 大和田 優
- ・ 広報情報委員長 杉本 勝郎
- ・ 広報情報副委員長 加藤 一郎
- ・ 広報情報委員 雨森 隆子 有泉 絵美 赤川 真理
- ・ 小山 将史 中原 尚代
- ・ 小井口 英寿 仙波 弦
- ・ 事務局 久保田 千尋



---

今月の表紙

## 横浜最古の寺 瑞應山 蓮華院 弘明寺

京浜急行・弘明寺駅の南側に位置する弘明寺の開山は、平安時代の寛徳元年(1044年)と、横浜最古の寺と言われている。寺の門前町として栄えた時を過ぎた今、仁王門から鎌倉街道への弘明寺商店街だけが、どこか懐かしさを残している。秋のお彼岸、お墓参りは、日本特有の仏教行事なのです。

---